

崇仁すくすくセンター

(挿し木プロジェクト)

2022年度活動記録集



崇仁すくすくセンターとは… 2023年4月、崇仁地域に京都市立銅駝美術工芸高等学校の移転、10月には京都市立芸術大学の移転が予定されています。こうした新たなまちづくりによって大きく変化する崇仁地域にて、まちと共に

あった元崇仁小学校、元崇仁市営住宅、元崇仁保育所などで命を育んできた樹木の挿し木を媒介とし、多くの方々とともに見守ることで、土地の記憶や物語、また人の繋がりを継承していくことを目指すプロジェクトです。

崇仁すくすくセンター (挿し木プロジェクト) 2022年度・年間の活動紹介

2022年度も引き続き、崇仁デイサービスうらおいのご利用者さんとの挿し木を介したおはなしの聞き取りやワークショップを軸に、崇仁児童館のこどもたち、また有志で集まってくださった地域の方々と一緒に、崇仁すくすくセンターの「大きな旗づくり」に励みました。挿し木に関しては、主に滋賀の山本のアトリエで管理を続けました。



2022年8月17日(水) ~毎週水曜日に継続中 「大きな旗づくり」/ 京都市下京・東部 地域包括支援センター

崇仁デイサービスうらおいのご利用者さんによる挿し木のちぎり絵13枚と、崇仁児童館のこどもたちによる「崇仁すくすくセンター2021～2022」の文字のちぎり絵を合わせて大きな旗をつくりました。地域の方にお声がけをし、有志で集まってくださった方々と一緒に、崇仁で生きていた植物で染めた糸で土台の布に縫い付けたり、旗の装飾のために藍染めをしたりと様々な活動を行いました。制作に関して、アイデアを出し合ったり、たわいもない話をしたり、相談にのってもらったり。毎回皆さんとわいわいにぎやかな時間を過ごしました。



一年を通して「崇仁デイサービスうらおいのご利用者さんと挿し木を介したおはなしの聞き取り」/ 崇仁デイサービスうらおい
2020年の枝の採集から、丸2年が経った挿し木の実物に触れていただきながら、思い出すことや感じたことをおはなししていただきました。聞き取ったおはなしは、ご本人やご家族の方にもご確認いただき、未来に向けての大切な記録として残していきます。



2022年8月21日(日) トークイベント「巨人の歯と眠り」「糸と布染め」「崇仁すくすくセンター(挿し木プロジェクト)」(共催: 一般社団法人HAPS) / 京都市下京いきいき市民活動センター集会室

2019～2020年度まで、崇仁すくすくセンターのはじまりの時期を協働したHAPSの石井絢子さん(アートコーディネーター)とともに、当時のことを振り返り、2020年度に制作した作品などを展示した空間でトークイベントを開催しました。写真提供: 一般社団法人HAPS



2022年7月29日(金)・8月5日(金)
「崇仁児童館のこどもたちと大きな旗づくり」/ 崇仁児童館
崇仁児童館のこどもたち約50名が、「崇仁すくすくセンター2021～2022」の文字を書いて、白い和紙に色を塗って色和紙を作り、それを使ってちぎり絵にしてくれました。



2022年9月18日(日)
「挿し木鑑賞会+挿し木の地植え場所を検討する会」/ 京都市下京いきいき市民活動センター1階ロビー・CAFÉ アミー・崇仁地域の高瀬川周辺
山本が滋賀のアトリエで日々の管理を続け、2年たった挿し木11種43本の様子を鑑賞していただく場を設けました。また、この樹種をこの場所に地植えするのはどうだろう、というようなことを考えながら一緒に崇仁のまちを歩き、樹木の専門家の視点もまじえながら、参加者のみなさんと地植え場所を検討する会を開催しました。

2022年10月12日(水)
「大きな旗づくり-タッセル(ふさふさ)づくり」/ 崇仁デイサービスうらおい
大きな旗の下辺の装飾として、タッセル(ふさふさ)を取り付けることになり、たこ糸とカラフルな糸を使って約60個をつくっていただきました。また、それをうまく取り付けることができるか一緒に試してみました。



2022年11月5日(土)～13日(日)
「崇仁文化祭に参加」/ 京都市下京いきいき市民活動センター

毎年、崇仁地域の様々な団体の取り組みや活動をご紹介されている崇仁文化祭にて、主に、崇仁デイサービスうおいの利用者さん、崇仁児童館のこどもたち、毎週水曜日に有志が集まってくださる地域の方々との「大きな旗づくり」についてご紹介させていただきました。



2022年12月2日(金)
「大きな旗づくり-京都市立芸術大学構想設計1回生と」/ 京都市下京いきいき市民活動センター会議室2

大きな旗づくり特別編として、京都市立芸術大学の構想基礎1回生10名、京都市下京・東部地域包括支援センターの実習生の方と一緒に大きな旗づくり、藍染めをしました。いつもの旗づくりとはまた違った雰囲気の中、手を動かすことで生まれる会話が生き生きとしていました。



2023年1月17日(火)
「完成した大きな旗を崇仁児童館のこどもたちにお披露目」/ 崇仁児童館

毎週水曜日に集まって大きな旗づくりをしている皆さんと、「崇仁すくすくセンター2021～2022」の部分をつくってくれた崇仁児童館のこどもたちに完成した作品をお披露目に行きました。「きれい!」「すごい!」「大きな～」「だんだんよくなった」などたくさんの感想をもらい、2021年11月から制作を開始し、ようやく完成した喜びを分かち合いました。

「崇仁すくすくセンター2021～2022・大きな旗」の制作について

「2021年11月の時点で順調に育っていた13種の挿し木を描くちぎり絵を残したい」と思い、崇仁デイサービスうおいの皆さんとの協働制作を始めました。最初に、ご利用者さんが水彩絵の具を使って白い和紙に色を塗り、様々な色の色和紙をつくっていただきました。そして山本が、13種の挿し木が大きく育った姿をイメージした下絵を描き、その上にご利用者さんや職員さんによって、ちぎり絵を重ねる制作を進めていただきました。また、布地に直接色が染まっている部分は、崇仁で生きている植物から色をもらって染めました。

その後、2022年7月～8月に、崇仁児童館のこどもたちが、「崇仁すくすくセンター2021～2022」の文字をちぎり絵で完成させてくれました。気持ちを新たに、2022年8月より、毎週水曜日に地域の方々に有志で集まっていただき、崇仁デイサービスうおいの皆さんと崇仁児童館のこどもたちがつくったちぎり絵を、崇仁地域で生きている植物から染めた糸を使って大きな土台の布に縫い付けたり装飾したりする「大きな旗づくり」を行ってきました。縫う作業だけでなく、絵の具を使っ

て絞り染めをしたり、藍染めをしてみたり、手を動かしながらどういう方法がいいか皆で意見を出し合い制作を進めてきました。

2021年10月に制作をスタートし、2023年1月に完成したこの大きな旗は、今後毎年開催する予定の挿し木鑑賞会の時に大空にはためかせたいと考えています。この旗が、崇仁のまちとともに、いつまでも挿し木が順調に育つよう見守る存在になってほしいと願っています。



①デイサービスうおいの利用者の方々による、色和紙づくりからスタート



②様々な色や模様の色和紙が完成



③2021年10月の時点で順調に育っている13種の挿し木の未来の姿を下絵として描く



④下絵の上にもちぎり絵を貼っていくデイサービスのご利用者の方



⑤崇仁地域に生きているアカバナユウゲショウ



⑥アカバナユウゲショウから色をもらって細かい部分を染める



⑦13枚のちぎり絵がどんどん仕上がる



⑧ちぎり絵を使った大きな旗の構想を練る



⑨「崇仁すくすくセンター2021～2022」の字を書く崇仁児童館のこどもたち



⑩書いた字の上に、作った色和紙を貼っていく



⑪有志が集まってくださる地域の方々とちぎり絵を大きな旗に縫い付ける



⑫大きな旗の周囲を装飾するレースを藍で染める



⑬崇仁デイサービスうおいの利用者さんによる大きな旗の装飾「ふさふさ」づくり



⑭出来上がった「ふさふさ」



⑮地域の有志の皆さんとアイデアを出し合いながら制作を進め、「大きな旗」が完成!

「崇仁すくすくセンター2021～2022・大きな旗」に描かれている13種の樹種

- 崇仁市管住宅より…アジサイ クチナシ バラ
- 崇仁小学校より…アジサイ ムクゲ フヨウ キンモクセイ ゲッケイジュ ナツミカン シロバナヤエウツギ ヒメクチナシ
- 崇仁保育所より…ムラサキシキブ マサキ シモクレン

「思い出すこと」「感じること」「思うこと」「描くこと」のおはなし

一年を通して、崇仁デイサービスうるおいのご利用者さんに、挿し木に触れていただいたり、大きな旗づくりの制作をしていただいたり、昔の崇仁の風景写真を見ていただいたりしながら、おはなしくださった内容を記録しています。挿し木に触れた瞬間に昔の思い出が一気にあふれ流れるようにはな

しをしてくださった方や、写真を見ながらじわじわとたくさんのお話を思い出しておはなしをしてくださった方など、対話の時間は本当に特別です。この記録は今後も続けていき、いずれ地植えされる挿し木とともに、大切に未来に残していきます。

日時：2022年5月18日(水)
場所：崇仁デイサービスうるおいフロア内
お名前：竹口エミ子さん
年齢 / 年代：96歳

皆山小学校からのちに崇仁学区に引っ越してきました。<崇仁小学校で生きていたアジサイに触れて>へえ。これが小学校で咲いていたアジサイなんですか?へえー。いいですねえ。家でもお花いっぱい育ててた。お花いいねえ。どんなお花って、なかなか名前覚えられへんくて。ネームプレートにお花の名前書いて植木鉢に挿してたけど、それでももう忘れてしましましてねえ。でも好きなお花とかいっぱいあったよ。

(記録者：山本麻紀子)

日時：2022年6月17日(金)
場所：崇仁デイサービスうるおい会議室
お名前：山形亨さん
年齢 / 年代：89歳

平安神宮の近くの小学校(粟田小学校)に行ってたんや。戦時中でな、学校行くやろ、空襲警報で一人ずつ帰らせられた。勉強でけへんかって、五条大和大路あたり的高等小学校(中学2年まで)に行った。中学2年に

終戦になって、学校にあった、剣道の道具、めん、竹刀、なぎなたなどアメリカ軍が運動場から突然入ってきて持って行って、その場で燃やしてもた。木刀なんか、7~8年使って、いつや出たのにもつたいなかったわ。もともとは東山区の知恩院の近くに住んでた。25か26歳の時に崇仁に来た。結婚して、やな。町内の役員してた。平成20年3月23日ごろ、僕ら町内の役員のところにな、京都市から人が回ってきてな、この建物(現在の下京いきいき市民活動センターのこと。平成20年4月、1階に崇仁デイサービスうるおい、2階にコミュニティセンターと地域包括支援センターがオープンした)を見に来たんや。赤飯とお茶が出たわ。

<崇仁小学校で生きていたアジサイの挿し木に触れて>

大学が来るんやもんなあ。景色は変わっていくわなあ。あんなあ、七条河原町下がったあたりは旅館がいっぱいあった。あさひ館とかな、他はもう忘れてしまった。菊屋か?ああ、銭湯あったで。うん、うん、あったあった。この窓から見えるそこもな(デイサービスの会議室から見える塩小路通りの北側)長屋やら古い家がいっぱいあったんや。高瀬川沿いにバラックの家とか。旅館もいっぱいあった。旅館って言ってもな、土木の人が止まる宿や。あそこの郵便局は昔からあった。もう60年くらいになるんちゃうかあ。市風呂もあったわ。向かいには天ぶら屋があって、その近くにぜんざい屋もあった。

え?ああ、小林さんとこか?小林さんのお母さんがやってはったんやなあ、ぜんざい屋。あのお母さんええ人やったで。小林さんとこ、よくジャンパー買いに行ってたで。ああ、なつかしいなあ。まちはそら変わっていくわな。これ(崇仁小学校で生きていたアジサイ)は残っていくといいね。頑張ってる。

(記録者：山本麻紀子)

日時：2022年6月17日(金)
場所：崇仁デイサービスうるおいフロア内
お名前：松下幸子さん
年齢 / 年代：80歳代

<崇仁小学校で生きていたアジサイに触れて>

へえ、これアジサイやなあ。家にもアジサイある。2色あるよ。ガクアジサイと普通のアジサイ、普通のアジサイのほうは赤い色。かわいい。え?植え替えか?ああ、そうやなあ、2年に1回植え替えしたらいいと思うよ。頑張りや。私もな、アジサイ、植え替えしようと思った時、事故にあってしまって、左手を折って、それから足がうまいこと動かへんようになった。挿し木なあ。菊は挿し木しやすいな。家にも挿し木した黄色い菊があるわ。私の家は、五条大橋の近く。昔、遊郭があった辺りな。鴨川と高瀬川の間にある。お嫁に来た時は77軒ほど家があったけど、今は17軒になってしまった。どんどん

人が減ってきてる。

花は結婚してから育て始めたよ。そうやね、今までお花100種類くらいあったかな。近所の人にもらった藤があって、鉢植えなんやけど、それなんか5年目にやっとお花咲いたよ。毎年咲いて、息子が写真撮ってくれてたわ。でもなんでか今年は咲かなかった。金のなる木って知ってる?あれな、白い花が咲くのと咲かへんのとがあるみたいやな。シクラメンは2年ほど咲いた。あれは外に置いてたらあかんよ。寒さに弱い。一日外に置いて太陽浴びせてたけど、すぐ家の中に入れてからギリギリ大丈夫やったわ。屋内に入れておかなあかん。お花によって注意しないといけないことがあるしな、難しいけど、楽しいなあ。やっぱりお花が咲いたら嬉しいなあ。アジサイもこれから大きくなって。大きく大きくなって花咲いてほしいなあ。

(記録者：山本麻紀子)

日時：2022年6月17日(金)
場所：崇仁デイサービスうるおい会議室
お名前：畑田勝義さん
年齢 / 年代：85歳

<崇仁小学校の写真を見て>

間之町七条上がったところ、今、ガソリンスタンドのあるところにあった皆山国民小学校に入って、途中から崇仁小学校に行き、中学校は立命中学に行きました。崇仁小学校で覚えているのは、門を入ったらならかな下り坂があって、二宮金次郎の像があって、その左側に天皇陛下をまつた建物があって、坂道を降りきったら右側のほうから校舎に入りました。家は、皆山小学校の近くにありました。「おくじん」という肉屋があって、その隣でした。皆山学区と崇仁学区が分かれるところ。常德寺があるでしょ。あそこの筋で学区が分かれるんです。わしの家は、崇仁学区ではなかった。中学ではバレーボールやりました。昔は9人制(今は6人制)で、前衛3人、中衛3人、後衛3人。中衛してて、一番動か

なあかんところやった。立命には、河原町七条からバスに乗って行ってました。今出川で曲がって、烏丸今出川から北大路のほうに。そしたら立命があります。遅刻しそうで急がないとあかん時は、家から走って烏丸通りまで走ってました。父の考えで、中学から立命に行くことになりました。息子と娘も崇仁の学校には行ってない。幼稚園から違うところにやってる。

(記録者：山本麻紀子)

日時：2022年6月17日(金)
場所：崇仁デイサービスうるおいフロア内
お名前：牧野弘子さん
年齢 / 年代：89歳

私は崇仁出身です。主人も同じです。

<崇仁小学校の写真を見て>

小学校の思い出はね、6年生の時に5kmのマラソン(京都市下京区大会?) 走ったことかなあ。昼の1時半に東寺を出発して。1位は、植柳校(しょくりゅう小学校)の人、ほんで、崇仁校は2位やった。(1位になれなくて)優勝旗持てなかったから2時間廊下に立たされた。当時の校長室にはほんとにたくさん旗がありましたよ。もうね、走る練習は、夏休み中、毎日運動場で練習です。日焼けで真っ黒でした。崇仁校の先生は親切であま厳しかったです。修学旅行は比叡山に行きました。歩いて行きました。(どなたかが?) 熱ださはって、大変で朝まで看病しました。麦飯、きゅうりの漬物、おつゆはきゅうりの具だけ。色んな思い出があります。

<崇仁小学校で生きていたアジサイに触れて>

ああ、これアジサイなのね。私の主人、一年前に亡くなったんやけど、植物大好きでした。盆栽してました。主人とは一回もけんかしたことないです。そうそう、仲良しでしたよ。幼稚園の時の幼馴染み。長いおつきあいでした。崇仁校の校長室の前にイチヨウの木がありました。あれももう無くなってしまったの?そう、伊東茂光先生の。ああ、あれは残ってるの。そうですか。ほかは無

くなってしまったんですね。アジサイは、、、ちょっと覚えてないです。もしかして新しいんじゃない?私が小学校に通っていたころはアジサイは無かったような気がします。え?ゲッケイジュ?ああ!!!はい、ゲッケイジュの木は覚えてますよ。へえ、ゲッケイジュの木も残してるの。嬉しいです。ねえ、また大きく育ててほしいです。お願いします。

(記録者：山本麻紀子)

日時：2022年6月28日(火)
場所：崇仁デイサービスうるおい会議室
お名前：松本元子さん
年齢 / 年代：94歳

<崇仁小学校の写真を見て>

ここね、しょっちゅう行ってましたよ。私のところの地域の学校が崇仁小学校ですから。河原町八条の角にお寺があるでしょ?そこです。私の家。そうそう、でも、去年の暮れの大晦日は鐘はつかなくてね。家からね、新幹線に乗っている人の顔まで見えますよ。隣にもお寺あるでしょ。あそこのお寺も家の寺も、2軒とももうすぐ今の場所を閉じて場所を移動します。私のところの寺はちょっとだけ南に。解体してまた建てるんです。大工さんがやってくれますけど。家の寺は、戦前に別の場所にあったところを疎開になって、今のところに来たんですけど、仮の建物なんで解体するのはそんなに大変じゃないんです。木造ですしね。でも隣のお寺は鉄筋やから、そう簡単にはいかないでしょうね。私は、生まれたのは山王学区です。なので山王小学校に行っていました。結婚したところが、道ひとつ挟んだところやって、崇仁でした。だから子どもは崇仁小学校に行っていましたよ。その後、私学の学校に行っていました。こどもは2人でどちらもお女の子です。1人は家を出てお寺にお嫁に行きました。もう1人の娘は今のお寺にいます。

<挿し木づくりをしているときの写真を見て>

へえ、こんなにやったの。大変やったねえ。こんなに！でも、かいらしいね。へえ、2年前ですか。これは学校でやってたんですか？あぁ、違うのね。

<崇仁小学校で生きていたアジサイに触れて>

アジサイ、家のお寺の庭にもあります。色はだいたい藤色が咲いてました。大きなアジサイがあって、お寺にくるお客さんが来たら喜んでくれていつも分けてあげてました。切ったらね、また増えて大きくなってね。かいらしいです。なんでかお花見てたら気持ちがほっとしますねえ。他にはどんな木を挿し木したんですか？へえ、梅、桜ですか。梅も桜も家には無いです。フヨウですか。フヨウは前はよう咲いてました。このアジサイ、2年たってるんでしょ？2年たってる割には小さいなあ。このポットに入れてたら窮屈やろうし、地植えしてあげたほうがいいですねえ。地植えしても、適当に(様子をみながら)水やりをしてあげて。でも、まあ神経質になりすぎてもダメです。またね、地植えで大きな広い場所に植えてあげて、ほんとにね、大きくなって欲しいねえ。お花が咲くのが楽しみやねえ。がんばってね。どうぞお願いしますね。

(記録者：山本麻紀子)

日時：2022年6月28日(火)

場所：崇仁デイサービスうるおい会議室

お名前：T.K.さん

年齢 / 年代：78歳

<崇仁小学校の写真を見て>

私は一人っ子です。市営住宅の32棟に住んでました。今は息子とは別に住んでるけど、毎日のように見に来てくれます。最初にできた子は女の子やったけど、あかんかった。私は料理が下手でね、息子のほうがとっても上手です。崇仁小学校の先生は怖かったですよ。男の子が女の子に何かちよっかいだしたら、そら先生が飛んできて、こらーってこっぴどく叱ってました。あぁ、そうやねえ、女の子のほうが人数が多かったように思います。

た。え？背の高い木ね、あぁ、ありましたね。鴨川の近くのほうですよ、線路のそば。はい、なんか大きな木があったように思います。

まちが変わっていくのは、近代化されていいことやと思います。芸大が鴨川を中心に開発してくれたらいいなと思います。

(記録者：山本麻紀子)

日時：2022年11月25日(金)

場所：崇仁デイサービスうるおい会議室

お名前：松井勇さん

年齢 / 年代：90歳代

私は昭和6年崇仁生まれです。家内は大阪の大国町の出身。親戚のおばさんからの紹介で出会った。私はな、崇仁小学校の2~3年の頃から身体が弱かったから、生卵に穴をあけて昼休みに飲んでたんですわ。当時は尋常小学校やったから、初等科と高等科行って8年過ごして、第四中学校行って、その後、京都工学校に2年、それから立命館大学の理工学部(電気科)に編入してね。大学の頃、体育の単位をとるために、友達2人と一緒に富士山に登った。2合目で一泊して、8合目まで行って夜になったから、五反田方面に滑り落ちて(運動靴にわらじを履いて砂地の斜面を滑り落ちる方法があった?)、東京で一泊して、夜行バスに乗って京都に戻ってきた。そんな思い出もあるな。昭和29年に大学を出て、電話局の運用部に就職したんですわ。臨時職員になって、国家公務員に採用されて、大阪電話局(土佐堀)に4年おったな。まあ、私はいつも上司に恵まれて、それから施設課係長3年間やって、管理職になったんや。それで、大阪市内の色んなところ回って、ああそやな1ヶ所につき3~4年くらいかな、最終はちょっと上の課長から口きいてもらって、大津の電話局の施設部の課長を4年やった。38年間。ずっとここから通ってたよ。そのあとは、1年何もやってなくて休んで、嘱託で住友金属でメンテナンスの仕事をして3年間

もうねえ、崇仁校のことは頭に焼き付いています。「先生わかりません」って言うたら、そんなんやしあかんのやって廊下に立たされてました。しつげが厳しかった。先生にはよう怒られたけど、ものすごく面倒見のいい先生ばかりでした。いい先生ばかり。水をいれたバケツを持って立たされるのは男の子だけやったけど、女の子でもおしおきが足らん時は、水半分くらいをいれたバケツ持って立たされたの覚えてます。女の先生もいたかな。いたいた、いました。女の先生は、女の子だけとお話をする先生やったような気がします。保健の先生やったかな。ずいぶん前に、同窓会みたいなんがあつて行きました。

<崇仁小学校で生きていたアジサイに触れて>

ありがとうございます。ここにいてくれてありがとうございます。もっと、もっと、もっとね。必ず大きく、大きくなってまだまだ伸びてね。

(記録者：山本麻紀子)

日時：2022年11月18日(金)

場所：崇仁デイサービス会議室

お名前：畑田勝義さん

年齢 / 年代：86歳

<崇仁市営住宅で生きていたクチナシに触れて>

ほお、第三浴場の近くに生えてたクチナシですか。「クチナシの白い花、お前のような花だった」という歌がありましたね。第三浴場には、子どもの頃、1~2回は行ったことがある。あの頃は、第三浴場の近くに郵便局がありましたよ。家は、河原町通りにある浄徳寺の向かいです。もともとは、皆山国民小学校に行っていました。その頃の写真がまだ残ってます。戦時中は疎開で滋賀県の大磯村小学校(?)に行っていました。家の隣の人が滋賀県に知り合いがいて、たばこ屋さんをやってた安田角蔵さんという人にお世話になって、たばこ屋の裏庭にある蔵に住まわせてもらってた。そこから小学校に通ってました。それから、滋賀から崇仁に戻ってきて、崇仁

やった。日給制やって、一日2万ももらえるもんやから月に40万や。高給取りになってもうてな。58歳で退職して、それからは何も仕事はしてない。そこから、町内会長、民生委員、自治防災会の部長、市政協力委員、選挙管理委員もやってた。選挙管理委員は、事前投票の立ち合いとか、選挙の指揮をとってた。あとな、氏神さんの総代もやってたわ。総代ちゅうのは、祭りのことの管理とかやわな。毎月屋間に町内パトロールをやってた。夜のパトロールはな、毎年年末の5日間、消防団と一緒に夜間パトロールもやってた。まあ、そのあとはというと、腰を悪くしてしまって歩かへんようになってな、一時は杖もついてたけどな、その頃に、歩道の段差につまずいてこけてしまって、病気としては、頸椎軟骨症っていう病気やな、まあ植物人間みたいになって120日間入院してたんやわ。手術して退院してからは、家では押し車を押して移動して、週3回デイサービス、1日は訪問看護、もう1日は訪問リハビリで、週5日は用事があるような生活です。まあ、こんな感じかな、私の人生は。今話した内容は、全部、龍谷大学の先生が書いた「まちを生きる」という本にまとまっているから、また読んでみてください。

(記録者：山本麻紀子)

日時：2022年11月30日(水)

場所：崇仁デイサービスうるおいフロア内

お名前：松井勇さん

年齢 / 年代：90歳代

58歳で仕事を辞めて、町内会長や民生委員、市政協力委員、自治防災会、とかもやってました。毎月20日が防災の日でね、学区内のパトロールしてましたよ。選挙管理委員もしてましたけど、ある日その会議が終わって、家に帰る途中になんかぞっとして、家に帰って熱計ったら熱があった。タクシーに乗って行きつけの医者に行った。調べてもらったらぎっくり腰になってまして。その町医者は、奥さんが看護婦さんで、今は機械で

小学校を卒業しましたよ。もう70年以上前のことです。崇仁小学校は、木造で平屋やった。崇仁の人らで建てた小学校らしいけど、その頃の記憶はないかな。うつろやけど覚えてるような気もする。小学校では、悪いことをするとそろばん持たされて立たされた。足は速くて全国大会も出たよ。なんでなんやろうね。普段から走りの練習をしてたとかではないです。崇仁の人は足が速いっていうことを、よう皮肉って言われたりしてましたね。1クラス40人とかやったかなあ、もっと多かったような気もするな。

松山ほうじゅん君。韓国の子。仲良かった。名前はしっかり覚えてるよ、というのは当時やっぱり東九条の人の差別があったからね。高瀬川沿いに向こうの人がいっぱい住んでたな。仲良かったよ。家にもよく遊びに行ってた。八条通りより南に住んで、家が川の上にあるから蚊によくかまれた。崇仁小学校にも韓国の人来てたよ。まあ、差別があったから、友達はずりくにくったやろうね。私は崇仁学区やった。小学校では、向こうの人(山王学区)の友達は少なかった。松山ほうじゅん君くらい。ドッチボールしてよう遊んだな。ホームベースにボールを置いて蹴るのとかもしてた。自分らでルール決めて。1塁から3塁まであって、ボール受け取ってボールを当てたら1点マイナス。野球とサッカーとドッチボールが混ざったようなやつやね。あとは木登りとかもした。

崇仁小学校はね、塩小路通りの門をはいたら、ゆるい下り坂があった。その坂を下ったら右側に二宮金次郎の銅像があって左側に天皇をまつた建物があった。中は見えないです。いつも閉まったままやった。木造です。勉強とかする校舎は須原通のほうにあった。敷地内に高瀬川が流れて、そこには亀がいました。裏のグラウンドの奥は、丘のようになって東海道線が走ってました。そこに、確か廊下みたいなのがあったような…線路沿いに講堂があって、そこは選挙とかに使われて

やるけれど、その当初は足首をひもでくくって、座布団を5枚お尻に敷いて、先生が腰をひっぱったんです。でもね、後日、整形外科の先生が言うには、腰じゃない首や、ってなことが分かって、高槻の医大病院の先生に首の手術してもらいました。もう植物人間になると言われたんです。120日入院しながらリハビリを頑張って、それで今があります。まあ、話がどもってしまうのもその後遺症ですわ。頸椎軟骨症っていうやつで。今でも腰は痛いです。デイサービスに週3回、病院のリハビリ訪問1日、訪問看護にも来てもらってます。何もない日はベッドで寝てます。居間のほうには、押し車を押して、家内が作ってくれる食事を食べに行きます。

<崇仁市営住宅で生きていたクチナシに触れて>

市営住宅22棟の5階にもともと住んでましたよ。そこはエレベーターがなかった。のちに、エレベーターのある24棟の2階に引っ越しました。今は、新しいところに住んでます。そういえば、木といえば、小学校のイチョウのことは知ってますか？高瀬川沿いにも桜の木がありますね。塩小路通の北側のあたり。高瀬川がぐるっとなって流路を変えた時、私、立ち合いましたよ。いろいろありました。そういう意味で、木も大切にしてください。頑張ってください。今日は話せてよかったです。はい、はい、またね。どうもどうも。

(記録者：山本麻紀子)



崇仁すくすくセンター（挿し木プロジェクト） 2022年度活動報告展

2022年度に行った様々な取り組みを紹介する
活動報告展を開催いたしました。

会 期：2023年2月5日（日）～2月12日（日）10:00～17:00
※2月7日（火）休館

会 場：京都市下京いきいき市民活動センター（うるおい館）1階ロビー
〒600-8207 京都市下京区上之町38番地

主 催：崇仁すくすくセンター実行委員会

共 催：崇仁デイサービスうるおい 京都市下京・東部地域包括支援センター

協 力：一般社団法人 HAPS 京都市下京いきいき市民活動センター
京都みどりクラブ 崇仁自治連合会 崇仁児童館 崇仁発信実行委員会

助 成：国土緑化推進機構「緑と水の森林ファンド」
下京区まちづくりサポート事業「SHIMOGYO + GOOD」令和4年度採択事業
京都市「Arts Aid KYOTO」補助事業

設 営：加藤至 向井麻理

設営補助：菊池季

会場撮影：中谷利明



展覧会の感想

※アンケートの回答より一部抜粋

継続して行うのがすごい。根性なかったらできへん。地域とアートの奥深い出会い、その継続的な取り組みが素晴らしい。さし木2030年まで・・・頑張ってください。旗・・・子供と高齢者の合作。楽しかった様子が目に浮かぶ。うれしいです。

京都市立芸大の学生の者です。知人からこのプロジェクトについて聞き、興味を持ったため、訪れました。今後、芸大生が地域の方との交流を通じ、崇仁地域の歴史、今を学べる機会が増えればいいなと思っています。

皆さんの思いだすことのパネルを読んでいると、土の中から植物をほり出して、花をさかしているようなそんな作業をイメージできました。よいですね。

とってもワクワク ウキウキ 長い時間やりたいです。

植物が育つ歩みのように、ゆっくり着実に、時に爆発的に？プロジェクトを続けておられる感じがとても伝わってきました。お互いをいたわって向き合うやさしい気持ちとか、長い時間やある種不確かだけど手ざわりのある出来事や日々を感じました。名も知らなかった、でも身近にある植物をていねいに扱うことが、プロジェクトの中心になっているのが、地域や人との関わりを重なるってよいなあと思いました。

ものすごい熱量で木々を集めてさし木して育てていることがわかりました。植物と夢のはなしを山本さんから聞いてみたいです。

地域のお年寄りのお話に胸を打たれました。積み重ねた記憶やらこぼれ落ちる言葉ひとつひとつの積み重ね 輝くようです。大事な記憶をすくいとった挿し木たち 元気に育ちますようお願いしています。

「思いだすこと」「感じること」「思うこと」「描くこと」のおはなしでは、挿し木にふれたお1人お1人の思いのこもったエピソードをじっくり読ませていただきました。それぞれのエピソードもみなさんで作られた大きな旗もとても素敵でした。ありがとうございました。

挿し木を中心に聞き取り、協働制作などが同心円状に広がっているようにも感じられるし、他方で挿し木を育てる時間、お話を聞く時間、聞き手/話し手の人生の時間、関わる人々の時間・・・さまざまな時間が、未来へ育つ植物の下で色々な長さでつながっているようなイメージも抱きました。他者を思いやるってよく聞けけれど、「他の時間を想像する」ことを山本さんのプロジェクトで教えてもらえた気がしました。

おはなしがとてもすてきでした。戦争を知らない私たち世代でも木(植物)を通して同じ時代にいることを感じたのは不思議だったし、こうやって何千年もいけると屋久島のような巨木になるんだらうなと時空を越えていく気がしました。

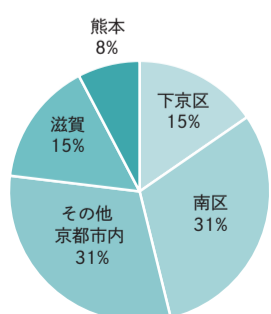
皆さんの思いの詰まったとても立派な旗でした。

2022年度活動報告展 アンケート集計結果

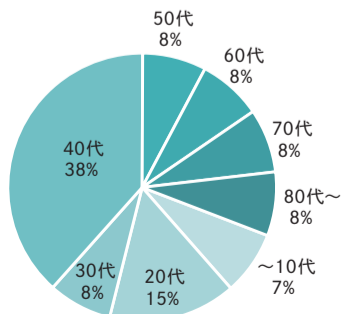
2023年2月5日（日）～6日（月）、2月8日（水）～12日（日）の7日間

来場者 約160名

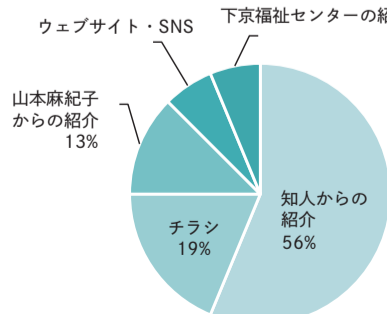
ご来場者のお住まい



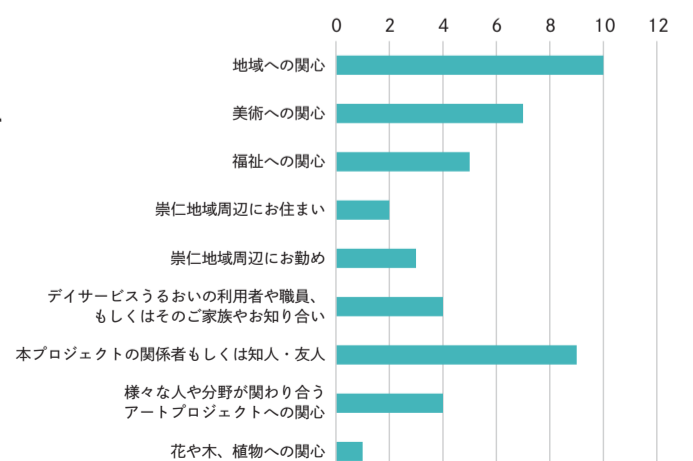
ご来場者の年代



展覧会を知ったきっかけ



ご来場の動機（回答数）



私は、今、2020年4～8月の間に小さな姿になり、2度目の冬越しをしている崇仁の挿し木たちのそばにいます。挿し木たちは、簡易ビニールハウスの囲いはずして、窓から入る太陽の光をさんさんと浴びています。今年もこの挿し木たちのおかげで、たくさんの方々、そしてたくさんの方々の言葉をもらえたことに胸がいっぱいになります。この胸がいっぱいになる気持ちをそっと開いてみて、頭に浮かんだ順に、一年をふり返ってみようと思います。時系列ぐちゃぐちゃです。思い出すままに記します。

滋賀の山間部にあるアトリエから京都市内に移動する間、バスの窓からぼんやりと樹木を眺めて過ごしています。その景色は、山で大きく育つ木々から、だんだんと同じ樹種が等間隔に並ぶ街路樹に変わっていきます。街路樹は年に1回ほど剪定され手入れがされています。電線や信号に当たらないようにだとか、視界の妨げをなくしたり、風通しをよくして枯れや害虫を防いだりするためです。そうやってまちなかで樹木と人がともに生きていくために、剪定というのは人間が樹木に対してできることの1つだと思っで見ていると、街路樹もしっかりと暮らしの一部であることに気づき、とても嬉しい気持ちになります。木を切るというと、せつかくのびのび生きているのにかわいそうな気持ちになったりしていましたが、よくよく考えると、木にとって植えられた環境によって、生き延びるための条件が決まり、その中で、末永く命を育んでもらうために人が樹木に対してどんなことができるのだろうか、ということを考えるようになりました。まちなかに植樹をすること。その意味をしっかりと考えるように今から努めないといけない。そう強く思った一年でした。挿し木たちを地面に戻したからと

いってそれで終わりではないこと。地植えしても、常に人の目が行き届くこと。人の手が入って管理する体制を整えること。そして、再度まちが開発されることになった時、それによって伐採されてしまわないような場所を確保すること。挿し木たちのために、そのような状況をしっかり時間をかけてつくっていかないといけないと思っています。

河原町八条の北西角にある崇仁市営住宅8棟は、京都市立芸術大学と京都市立銅駝美術工芸高等学校の移転予定地ではないですが、2023年度に解体が予定されています。その敷地には現在も全部で5本のサクラが生きています。京都市の方に敷地に入らせてもらう許可をいただき、6月にサクラの枝を切らせてもらいました。かんかん照りの暑い日でした。サクラのそばには濃いピンクのサルズベリの花が咲いていました。淡いピンクのムクゲも満開でした。すでに住民の方はお引越しまさされていましたが、たくさんの方が生い茂っていて、エネルギーに満ち溢れていました。サクラの枝をアトリエに持ち帰って、徐々に挿し木づくりの作業をしていると、なぜか今回は絶対にうまくいく自信がわきあがってきました。今回は大丈夫。うまくいく。私の指がそう感じ取りました。

友人から、福島県大玉村の藍の種を送ってもらって、私のアトリエがある集落の方の畑で藍を育ててもらいました。4月に種まきをし、5月に畑に移植しました。鹿対策の囲いをしました。集落の方にたくさん助けてもらいました。その皆さんと9月に藍の生葉染めをしました。ミキサーでかくはんした時は緑のままですが、その緑の液体に布をいれ空気に触れさせると、瞬時に青っぽい色に変色しました。布に色が移りゆ

き、繊維に色が染み込んで、もともとは藍の葉っぱの中に閉じこもっていた色が色布へと姿を変えていく様子は、何度見ても不思議でしかたありませんでした。布の素材によって染めあがりの色が異なり、藍の色と布の素材の相性がそのまま色になっていきました。生葉染めを十分に楽しんだあと、藍を収穫し、半分は茎と葉っぱに仕分けをして葉っぱだけをざるにいれて、残りは茎に葉っぱを付けたままアトリエの土間に吊り下げて乾燥させました。その藍の葉っぱで藍染めをしました。乾燥した藍の葉っぱだと、薬剤をいれないと、いわゆる藍の色は出なくて黄色に染まりました。とてもやさしい色でした。

8月から毎週水曜日の9～10時に、崇仁地域で有志が集まってくる、大きな旗づくりの皆さんとも乾燥葉を使った藍染めを2回しました。1回目は薬剤をいれないで黄色い藍染めをしました。藍の色ではない染めあがりを残念がられるかなと心配でしたが、「ええやん。これも藍染めやろ?」とおっしゃいました。乾燥した藍から出るそのままの色を楽しんでくださいました。とても嬉しかったです。下京・東部地域包括支援センターのベランダに麻ひもを張って、そこに黄色い布を干しました。一列に並んだ鮮やかな黄色いハンカチ9枚が、市営住宅に向かって元気を送っているように見えました。

ある時、大きな旗づくりの皆さんに、なぜ崇仁すくすくセンターという活動をしているか、なぜ大きな旗をつくりたいのかの説明をしたことがありました。「つまり、私らよりも崇仁のことを思ってくれてるんやな」と、ある方がおっしゃいました。それを聞いて私は心臓が止まりそうになりました。泣きそうになりました。でも

2022年度を振り返って

ここで涙を見せたらダメだと反射的に思いました。それは、「何かを残す」ということは、「自分がいつかの世からいなくなる」ことを意味するんだと、私はその瞬間に思い至りました。そして、この活動をもって、人間や植物の生死そのものをもっとしっかりと受け止めていかないといけないんだと理解しました。

毎週月曜日の午前中は東九条で時間を過ごします。9～10時まではコミュニティカフェほっこりでモーニングのお手伝いをし、10～12時までは、東九条マダンのはりしごとの会に関わらせていただいています。この月曜日の午前中は、私にとって一週間をスタートさせる滋養の時間のように感じます。モーニングのお手伝いをしながら常連の方々とお話をして色んなことを教えていただいています。はりしごとの会では、東九条マダンの時に子どもたちが着る衣装のパジャマの縫い方を教えてもらって縫っています。衣装を縫いながらの時間は、人生の先輩と、生き物のこと、地域のこと、世界情勢のこと、家族のこと、本当に様々なお話をしたり、相談にのっていただいたりしています。2019年から縫い始めて、2022年の5月ようやく1着縫いあがりました。ティー（たすき）も縫いました。衣装を包む風呂敷のようなポジャギも縫いました。それを友人の娘さんにプレゼントしました。この1着が、これからその家族代々の子どもたちが着てくれる、そんなものを私がつくりあげることができました。それは私にとってとても大きな出来事でした。

東九条の希望の家保育園の子どもたちと先生と一緒に、鴨川沿いでお花を摘んでそれを押し花にしました。これまで一人では見つけれなかった東九条のたくさんのお花たちに出会えました。お花を分厚い本

に挟み込む瞬間、お花にたくさんのお気持ちを送りました。その子どもたちの気持ちや目はとても美しいものでした。押し花が完成し、一枚のティッシュの上に置かれ、べったんこになった様々な花や葉っぱの配置は、ため息がでるほどの美しさでした。美しいと思うと心が大きく動かされます。そこで、ああ、心はここにあるんだな、といつも思います。私たちはどうして美しさを感じとれることができるんだろう。そもそも、どうして美しいと思うんだろう。きっと、崇仁の挿し木たちはもともとの大きな姿の時、たくさんの方々の心を動かしたんだろうな、そしてこれからさらにたくさんの方々の心を動かすんだろうなと思って、また私の心が大きく動きました。

私は月6回、東九条のぞみの園の特養の入居者さんとお話をさせていただき、聞き書きをしています。私が想像も及ばない辛いお話や、人生における助言や教訓をたくさん教えていただいています。そして、その対話をもとに、一緒に絵をかいたり、相談ごとをしたり、相談にのったり、何にも代えることができない時間を過ごさせてもらっています。崇仁デイサービスうおいの利用者の方々とも、崇仁の挿し木を介してお話を聞かせていただいています。ご自分の人生のこと、思い出、未来にむけて。利用者さんの口から出る一言一言を、私たちよりもおそらく長生きをしている挿し木とともに聞くことができている、その状況にいつも少し緊張しながら、その時間をできる限り丁寧に過ごそうと努めています。時には耳を覆いたくなるくらい苦しいおはなしもあります。過去の歴史についても皆さんのおはなしから学びます。その方が背負ってこられた様々なことを知り、想像をし、一人になった時に史実を調べ、どう受け止めどう向き合うか、自分

なりに考え続けています。私の身体は、人生の先輩たちからいただく言葉であふれているように感じます。

月1回、東九条の高瀬川の川そうじにも参加しています。高瀬川に入り、そうじをしながら、そこで様々な物や生き物に出会います。生活ごみもたくさんあります。川底に埋もれている小瓶や陶器にも出会います。高瀬川を下りながら、人の暮らしについて考えます。

誰かの一言に、あの子の視線に、何かの色に、その日の太陽の温かさに、ある時に感じた風に、川で出会う様々なものに、どんどん変わっていくまちの風景に、私はいつも何かを受け取り、時には悲しみ、時には喜びを感じ、戸惑い、悩み、気持ちが揺らぎ、そしてじっくり自分と向き合って決意を固め、動き続けました。その傍らには、まちの樹木がいつもの場所にそっと存在していることに何度も気づかされました。地域で長く生きてきた樹木たちから、彼らが体験してきたものの一粒を少しずつ分けてもらっているような気がしています。そして、私はそれらを、この崇仁すくすくセンターの活動に反映させてもらっているのだと思います。

2023年2月17日 山本麻紀子

崇仁すくすくセンター実行委員会メンバー紹介



崇仁すくすくセンターを始めた2020年4月とは、すっかり変わったまちの風景を目の前に、いつかまたこの崇仁の地面に根を下ろす挿し木たちの姿を思い描き、今、どんなことができるか考えてきました。今年も挿し木たちには、たくさんの人との出会いがありました。挿し木を介して集う、人、時間、言葉。そして、地域の方々と一緒に作りだすものたち。それらとこれからも丁寧に寄り合い、大切に未来へ繋いでいきたいと思っています。

山本麻紀子(アーティスト)



すくすくセンターの一員として、挿し木プロジェクトにかかわる幸せを感じております。京都市立芸大の移転は、地域が活気づくという期待を持つ一方で、これまでの暮らしや街の雰囲気が変わってしまうという寂しさや不安もあります。このプロジェクトを通し、挿し木の成長を共に願いながら、過去の想い・明日への願いを教えてください。地域の皆さまに感謝いたします。皆様の『気持ちのおすそ分け、時間のおすそ分け』を頂き、私たちは、これからの『まちづくりの輪』に入れて頂きたいと思っております。

小笠原 邦人(総合福祉施設 東九条のぞみの園 施設長)



2年目を迎えたすくすくセンター実行委員会、昨年よりも更に細やかな情報交換と連携が生まれ、山本さんからはプロジェクトへの責任感や不安も徐々に共有してもらえるようになりました。地域との関係性がじわりじわりと育まれて、地に足をつけ、地域に根を張ろうと頑張っている様子が実感できます。そして、山本さんのアトリエに並んだ鉢の中で、じわりじわりと育っている挿し木たちの姿と重なります。そんなすくすくセンターの2022年の活動でした。

安部良(安部良アトリエ級建築士事務所)



2022年度、多くの方々に関わっていただきできあがった「大きな旗」。その旗を目の当たりにして感じた、色や匂い、手の温度は、まさに命あるものの温もりそのものであったように思います。すくすくの活動全体に息づいているこうした温もりは、日々、活動運営と挿し木の管理にあたってくださっている山本さんはもとより、関わってくださる皆さま抜きには生まれません。この場を借りて、感謝申し上げます。今後は、いっそう実行委員会としての働きが問われてくるだろうと思いますので、少しでも力となれるよう励んでいきます。

安部知(安部良アトリエ級建築士事務所)

委員長 山本麻紀子(アーティスト)

副委員長 小笠原邦人(総合福祉施設東九条のぞみの園 施設長)

委員 安部良(安部良アトリエ級建築士事務所)

監事 四元秀和(京都市文化芸術企画課文化力活用創生担当課長)

事務局 安部知(委員兼務 / 安部良アトリエ級建築士事務所)

宮崎彰子(京都市下京・東部地域包括支援センター センター長)

大森晃子(崇仁デイサービスうらおい 管理者)



2022年度、昨年度から準備を進めていた「大きな旗づくり」に、地域包括支援センターや児童館をはじめ、地域の多くの方々に参加し楽しんでいただきました。活動報告展でお披露目されたその旗は、とても明るく伸びやかでした。清々しい励ましを頂き、大きな勇気が湧いたことをよく覚えています。今年4月には京都市立美術工芸高校、10月には京都市立芸術大学が移転開校します。そんな大切な1年に、すくすくセンターとしてできることを丁寧に考え、積み重ねていきたいです。

四元秀和(京都市文化芸術企画課文化力活用創生担当課長)



2022年度は、地域包括支援センター主催で行っている「うらおい館ラジオ体操」の参加者にお声かけをし、「大きな旗づくり」活動を行いました。毎週の作品づくりは、活気あり、笑顔あふれ、時には恋の話に花を咲かせるなど温かい時間です。作品づくりを通し、人と人がつながっていくことの大切さ、自然とお互いに元気を与え、支え合っていることを感じる時間となりました。年を重ねても、ますますお元気に、みなさんとこれからも時間を過ごしていきたいと考えています。

宮崎彰子(京都市下京・東部地域包括支援センター センター長)



去年度はデイサービスのフロアで挿し木を見守りながら育てていましたが、今年度は大きな旗づくりを中心に活動させて頂きました。デイサービスの利用者様と地域の方と児童館の子らが、作成した旗を一緒に囲んでいる姿はまさに「循環」を感じました。崇仁の樹木を残すこと、崇仁の記憶を残すこと、崇仁の過去が未来につながることを、人や物を通してさらに多くの人々と共有できるのがうれしいです。来年度もこのような輪が広がっていくことを願っています。

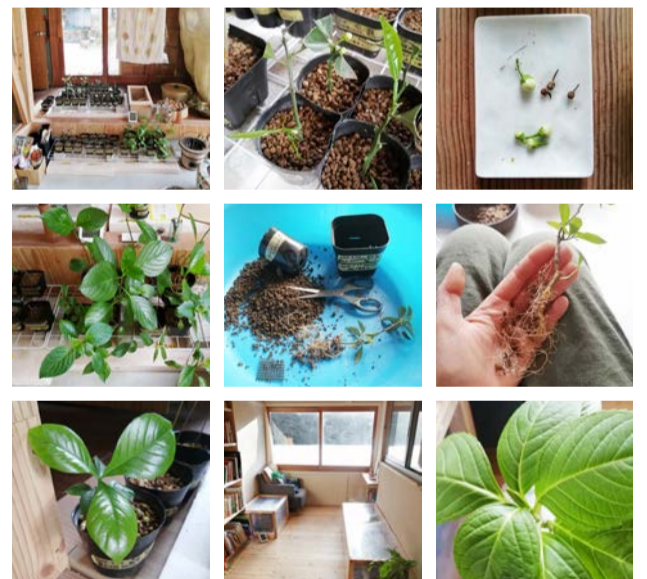
大森晃子(崇仁デイサービスうらおい 管理者)

挿し木の管理について

今年度も、主に滋賀県の山本のアトリエで挿し木の管理を行ってきました。アトリエが山間部にあり、何でも食べる鹿が頻りにやってくるため、基本的に屋外ではなく基本的には日当たりのいい屋内の土間で管理をしていました。2022年9月、植物のアドバイスをいただいている方から、全体的に日照時間が足りていないように見えるとご指摘をいただき、それからはできるだけ太陽と風に当てることに注力しました。風に当たると、ひょろひょろしていた茎がしっかりしてくる様子を目の当たりにし、やはり植物にとって風と光がとても重要であり、できるだけ屋外で生育させてあげることが重要だということを改めて認識しました。来年度は獣害にあわないように工夫して屋外で管理ができるように整備しようと考えています。

また、昨年度、崇仁デイサービスうらおいでいくつかの挿し木の見守りをさせていただいていたのですが、やはり空調がきた中で生育は挿し木にとって負担になると判断し、今年度は挿し木の見守りは一時停止としました。あと数年経って、成長がしっかり安定してから再開できればと考えています。

冬の間は、挿し木は簡易ビニールハウスの中に入れて管理をしています。今年は、アジサイとバラがなぜか落葉せず、少し様子を見ているところです。葉をむしって強制休眠させる方法があると知りました。今後、いろいろな情報を集め、最良の方法を探りながらやってみようと思っています。



2023年2月の時点で順調に生育している挿し木の樹種 ●崇仁市営住宅より…アジサイ クチナンシ バラ

●崇仁小学校より…アジサイ ムクゲ フヨウ ナツミカン シロバナヤエウツギ ヒメクチナンシ ●崇仁保育所より…マサキ シモクレン

崇仁すくすくセンター(挿し木プロジェクト)2022年度

主催：崇仁すくすくセンター実行委員会

共催：崇仁デイサービスうらおい 京都市下京・東部地域包括支援センター

協力：一般社団法人 HAPS 京都市下京いきいき市民活動センター

京都みどりクラブ 崇仁自治連合会 崇仁児童館 崇仁発信実行委員会

助成：国土緑化推進機構「緑と水の森林ファンド」

下京区まちづくりサポート事業「SHIMOGYO + GOOD」令和4年度採択事業

京都市「Arts Aid KYOTO」補助事業



崇仁すくすくセンター(挿し木プロジェクト)

2022年度活動記録集

発行：崇仁すくすくセンター実行委員会

デザイン：カズマキカク 印刷：ウェブプレス 発行日：2023年3月

著作権法で定められた範囲を除き、無断での複製、複写、転載を禁じます。

崇仁すくすくセンター ウェブサイト sukusukucentre.org

ご意見・ご感想などは以下メールアドレスまでご連絡ください。

contact@sukusukucentre.org